

第1章 はじめに

1 策定の趣旨

東京2020大会に向けてボランティアの裾野拡大及び「都市ボランティア」の効果的な確保・育成を図るため、大会後のレガシーも見据え、県が取り組むべき方向性を明らかにする。

2 方針の位置付け

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の「戦略8 機運の醸成・国際交流の促進」を踏まえ策定。

第2章 東京2020大会のボランティア（概要）

1 東京都・組織委員会におけるボランティア

大会ボランティア（組織委員会が運営。会場内で大会運営等を補助）8万人、都内の都市ボランティア（開催地の自治体が運営。駅・空港等で旅行者に交通・観光案内等のおもてなしを行う）1万人を想定

2 本県におけるボランティア

(1) 大会開催時に活躍するボランティア

- ・8競技開催⇒県・市町村が「都市ボランティア」を募集・運営
- ・大会開催時は観光地をはじめ、様々な場所でボランティアが活躍

(2) 都市ボランティアの活動内容

大会関係会場以外における旅行者に対する交通・観光案内、高齢者や障害者サポート、緊急時の医療班への連絡、多言語対応など

(3) 都市ボランティアの活動場所

競技会場周辺の駅や空港及びその周辺の駅など

※競技会場：千葉市（幕張メッセ）、一宮町（釣ヶ崎海岸）

(2) 多様な人材の参加促進

（児童・生徒）大会開催時にボランティアに参加・体験できる仕組みを検討（障害者）配慮・支援を要する事項の把握、障害者が参加しやすい体制整備（その他）働く世代・大学生・元気な高齢者・外国人留学生等の参加促進

方向性2 質の高いおもてなしの提供

(1) 多様な団体との連携・協働

①東京都及び他の競技会場を有する自治体との連携

- ・都市ボランティアのユニフォーム・活動拠点の装飾等の統一化を検討
- ・接遇や大会概要などの研修の一部を共通化

②県内関係市町村・関係団体等との連携

都市ボランティア分科会開催、具体的運用や県と市町村の役割分担を検討

③県内市町村との連携

大会開催時に各市町村が行うボランティア関連事業との連携を検討

(2) 募集・選考

募集条件：東京都及び他の競技会場を有する自治体の条件を考慮

<応募条件検討の方向性> ※内容は東京都と同様

- ・平成32（2020）年4月1日時点で満18歳以上
- ・5日以上（1日5時間以上）活動できる方 など

(3) 人材育成

- ・東京都・組織委員会等と連携し、共通研修（接遇・大会概要など）を実施
- ・個別研修（役割別・配置場所別研修）を実施、リーダーシップ研修の検討

(4) 多言語対応

ボランティア、配付資料の対応言語、翻訳アプリ等のICT活用の検討

(5) 国際大会等との連携

- ・世界女子ソフトボール大会（2018年8月）との連携
- ・ちばアクアラインマラソンとの連携

方向性3 大会後の機運の維持と活動の発展

機運の維持・継続：情報提供できる仕組みの構築、活動機会の拡充など

第3章 推進方針（主な内容）

1 目標：多くの県民の参加による大会の成功とレガシーの創出

2 施策の方向性

方向性1 多様な人材の確保・活躍の促進

(1) 機運の醸成・裾野の拡大

- ・HP・SNS・リーフレットなど様々な媒体で情報発信
- ・過去大会のボランティア経験者等を招いた講演会等の開催
- ・外国人おもてなし語学ボランティアの育成

第4章 推進体制とスケジュール

- ・CHIBA推進会議—専門部会8—都市ボランティア分科会
- ・平成30年（2018年）夏頃募集予定